

図 2.SP の認知率と Q2 の正答率との比較

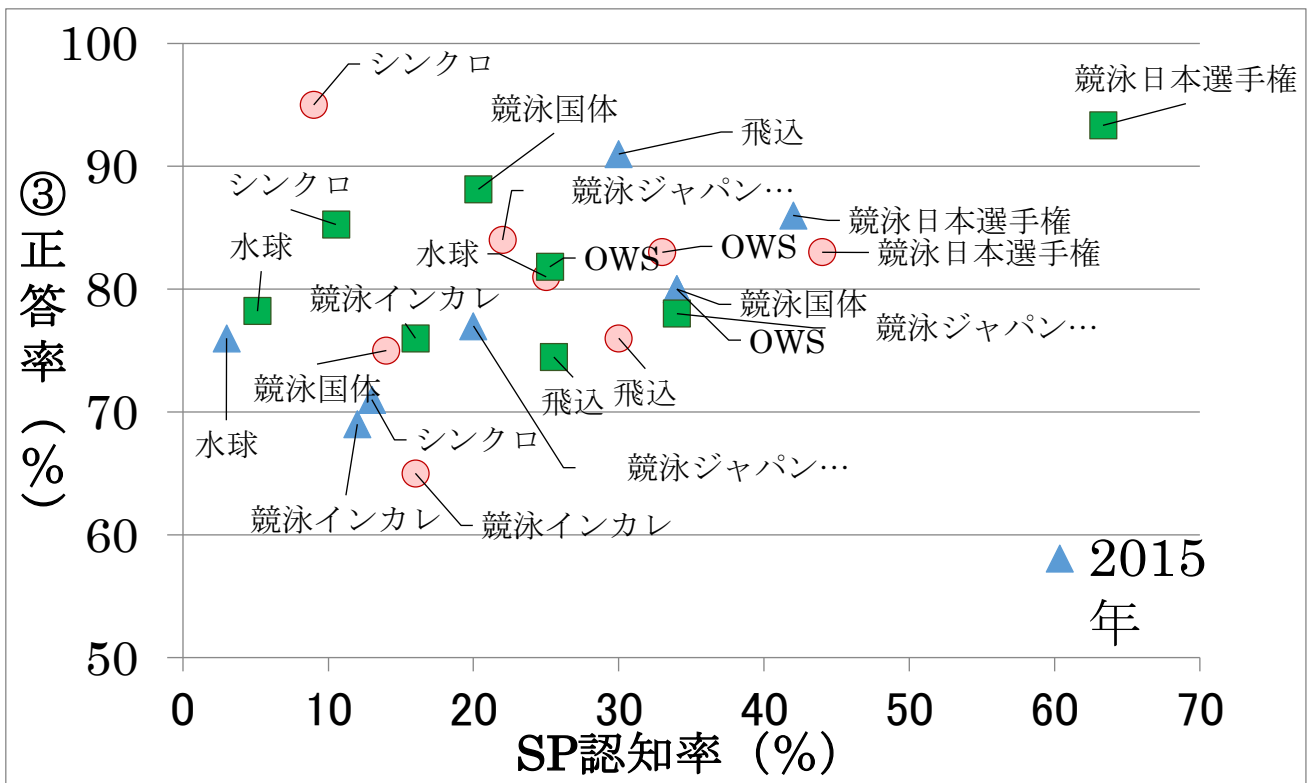


図 3.SP の認知率と Q3 の正答率との比較

図 1

- ・ 病院でもらう薬がドーピング違反になる可能性があるとして理解している割合が高くなると、サプリメントがドーピング違反になる可能性があるとして理解している割合も高くなる。
→ドーピングについてきちんと理解している人は理解している。
- ・ 競泳日本選手権は3年とも理解度が高い一方、競泳インカレは3年とも理解度が低めの傾向にある。
→アンケート回答者の背景が均一でないため年度ごとの単純比較はできないが、インカレ参加者はドーピングに関する意識が低い傾向がある可能性が考えられる。

図 2、図 3

- ・ スポーツファーマシストの認知度が高いほど、薬やサプリメントがドーピング違反になる可能性があるとして理解している傾向がある。
→ただし、スポーツファーマシストの認知度と、サプリメントを使用する際に誰かに相談する割合とは相関しておらず(グラフ非開示)、スポーツファーマシストそのものの認知度を高めるだけでなく、スポーツファーマシストが相談先の一つとなり得ることも認識してもらえよう、更なる活動が必要と考えられる。